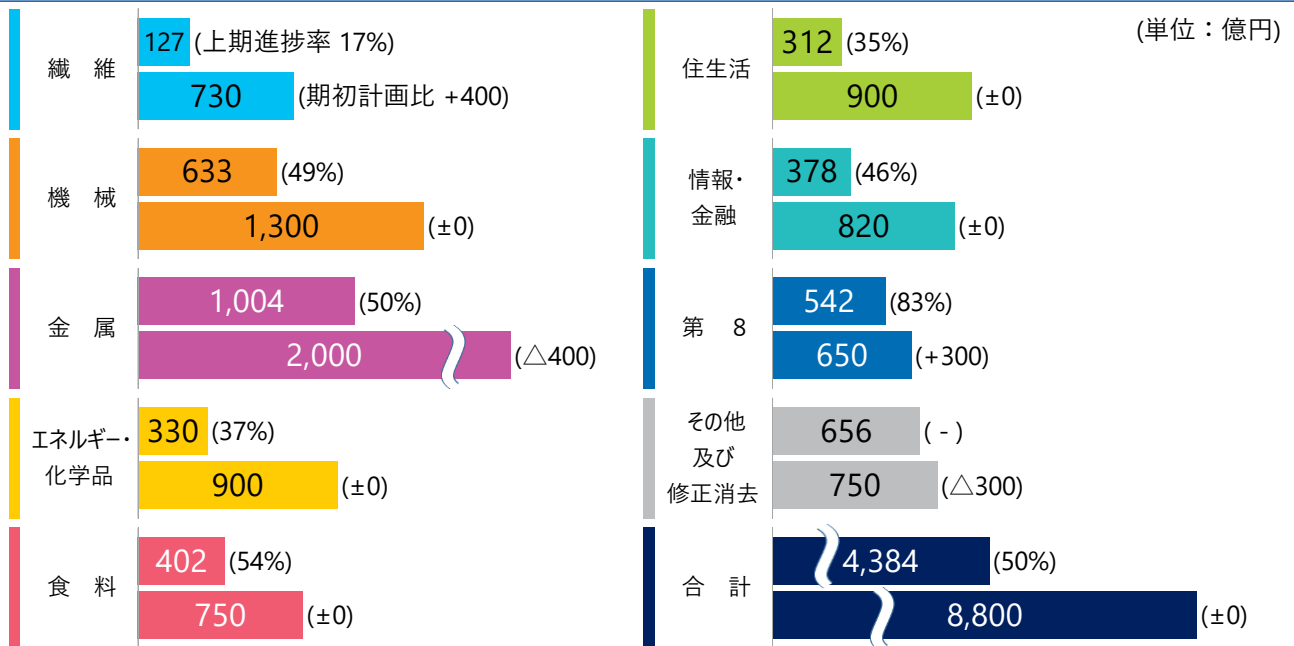


セグメント別 24年度上期実績・年間見通し

上段：上期実績（上期進捗率）
下段：年間見通し（期初計画比）



Copyright © ITOCHU Corporation. All Rights Reserved.

The Brand-new Deal

各セグメントの見通しの達成確度について補足説明します。

上期の連結純利益は前年同期比255億円の増益の4,384億円となり、年間見通しに対する進捗率は50%となりました。全社としては順調に進捗しておりますが、各セグメントの年度見通し達成に向けた取組状況やセグメントの強弱感について説明します。

繊維は、下期にデサントの完全子会社化に伴う一過性利益を見込んでおり、期初計画より400億円増額の730億円の見通しとしています。下期の一過性利益の影響により上期の進捗率は低く見えますが、アパレル業界の特性に基づいた下期偏重の見通しとなっており、想定通りに進んでおります。インバウンド消費の継続、スポーツ分野の事業基盤強化、ブランド事業の磨き、OEM事業等の収益積み上げにより、基礎収益をまだ伸ばせると考えています。

機械は、北米電力事業での保有発電所の定期点検による稼働率低下の影響や日立建機の取込損益減少はありますが、新車・中古車販売好調なヤナセ、引続き堅調な海外自動車事業、荷動きが底堅く市況の良い海上輸送やコロナ禍以前の水準に回復した航空旅客需要などによる下支えで堅調を維持する船舶・航空事業が好調に推移しています。下期も大きな経営環境変化が無ければ、更なる上振れが狙えると見ています。

金属は、期初計画より400億円減額した2,000億円の見通しとしています。資源価格、特に中国景況の影響を受けやすい鉄鉱石の動向や新規の北米・豪州での原料炭事業の操業遅延については予断を許さないものの、下期での新規投資やコスト改善、非鉄製品事業等により、基礎収益の積上げ策を講じてゆきます。

エネルギー・化学品は、原油価格の下落懸念やエネルギー・トレードの低迷はありますが、伊藤忠ケミカルフロンティア等の国内事業会社や化学品トレード等の国内外の化学品事業及び電力取引が堅調です。下期には10月末で完全子会社化が完了したタキロンシーアイからの取込利益の増加や、エネルギー及び蓄電池関連での一過性利益の計上等を見込んでおり、計画達成の見込みです。

食料は、食品流通事業会社の外食・量販向け取引や食糧原料分野におけるトレードが好調で、継続して順調に推移する見込みです。加えて、北米豚事業HyLifeの立て直しとDoleの収益改善を着実に実施中で、大きなマイナス要因はありません。こちらにも更なる上振れを狙っています。

住生活は、建設・不動産では、国内不動産事業が引続き堅調に推移し、大建工業での「削る」の徹底および収益力強化による取込増加や、西松建設・オリエンタル白石とのシナジー強化により、更なる収益積み上げを図っています。生活資材・物流部門は、北米建材事業及びETELでの資材コスト上昇に対し、未だ国際市況は厳しい環境を見込みますが、価格転嫁や低重心経営の徹底等により収益力を強化していきます。また、期初に予定していた資産売却が遅れており本年度での実現見通しが立たぬゆえ、新たな資産入替等による一過性利益により、見通し達成を目指します。

情報・金融は、下期型のCTCでは見込み以上の底堅い顧客のデジタル化ニーズの継続と、PMIの着実な遂行及びデジタル・バリューチェーン戦略の実行により、収益力を更に強化しています。為替変動影響や資産運用を開始する層の増加により取扱高が拡大する外為どっとコムが好調で他のファイナンス事業の好転も期待されます。また、アンミカさんのコマースが印象的な「ほけんの窓口」は集客力強化策の実施に伴い堅調に推移する見込みです。また、医療系CRO事業、ヘルスケア事業、スカパーJSATを中心とする宇宙・メディア事業も同様に堅調です。

第8は、上期の進捗率は、ファミリーマートの中国事業再編に伴う一過性利益もあり、83%と高進捗となっております。FMは、原材料やロジコストの上昇や金利上昇に伴うインフレからの消費減退への影響が懸念されますが、強いインバウンド消費やコンビニエンスウエアやPB戦略の充実により日商を維持しています。一方でデジタルツールの活用による生産性向上等の取組みを加速させ更なる利益拡大を図ってまいります。ファミリーマート事業を軸に創出した新規事業も順調に拡大しており、特にメディア事業のゲート・ワンはサインージ設置店舗が1万店舗を超え、幅広い商材・サービスの広告主から受注を頂くなど収益に貢献できる事業に成長しています。

その他セグメントは、CITIC Limitedは、収益が引き続き堅調に推移し、加えて、中国当局の株式市場回復に向けた施策や配当増などにより株価も上昇中です。C.P. Pokphandも、飼料コスト減少や豚価格の底打ちにより回復基調へ転じるなど順調に復調しております。

以上、総じて機械、食料、情報・金融は強含みの見通しであり、他のセグメントにつきましても見通し達成に向けて着実に進捗している状況です。

但し、為替はもちろん、資源価格の動向については冬場の天候、政治環境、国際紛争でたやすく変動し、これまで好調であった欧米経済の減速懸念や中国経済の回復遅れなど、国際需給と市況の変動には引き続き留意して参ります。加えて、進行中の新規投資につきましては、確りと仕立て上げながら推進しており下期に加速して参りますが、実行タイミングによっては収益貢献が遅れる可能性があります。しかしながら、期初に設定したバッファ▲400億円により十分吸収できる範囲内と想定しており、当期の8,800億円は達成できると考えております。そして、当期のみならず、来期以降に向けて収益基盤を着実に強化して参る所存です。

最後に皆様のご関心の高い WECARSの状況についてご報告しておきます。設立後約5か月が経過しましたが、営業面では月間の仕入販売共に着実に回復基調に転じています。WECARSへのブランド変更として、全店舗で内装の変更が完了し、現在看板の入替も順次進めており、年内に完了予定です。また、最も重要な組織風土改革として、社長による全店長・工場長との面談やコンプライアンス対策本部による全販売店での巡回研修等を順次実施しており、人事評価制度・報酬制度の見直しにも着手しています。更に、ほけんの窓口を活用した透明性・利便性の高い保険サービスの提供を一部店舗で開始しております。伊藤忠グループの総合力を發揮しながら、マーケットインの発想で事業の進化を図り、中古車業界No.1の地位復活を目指します。

私からは以上です。
ご清聴有難うございました。